

農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興基盤総合整備事業）

牡鹿地区

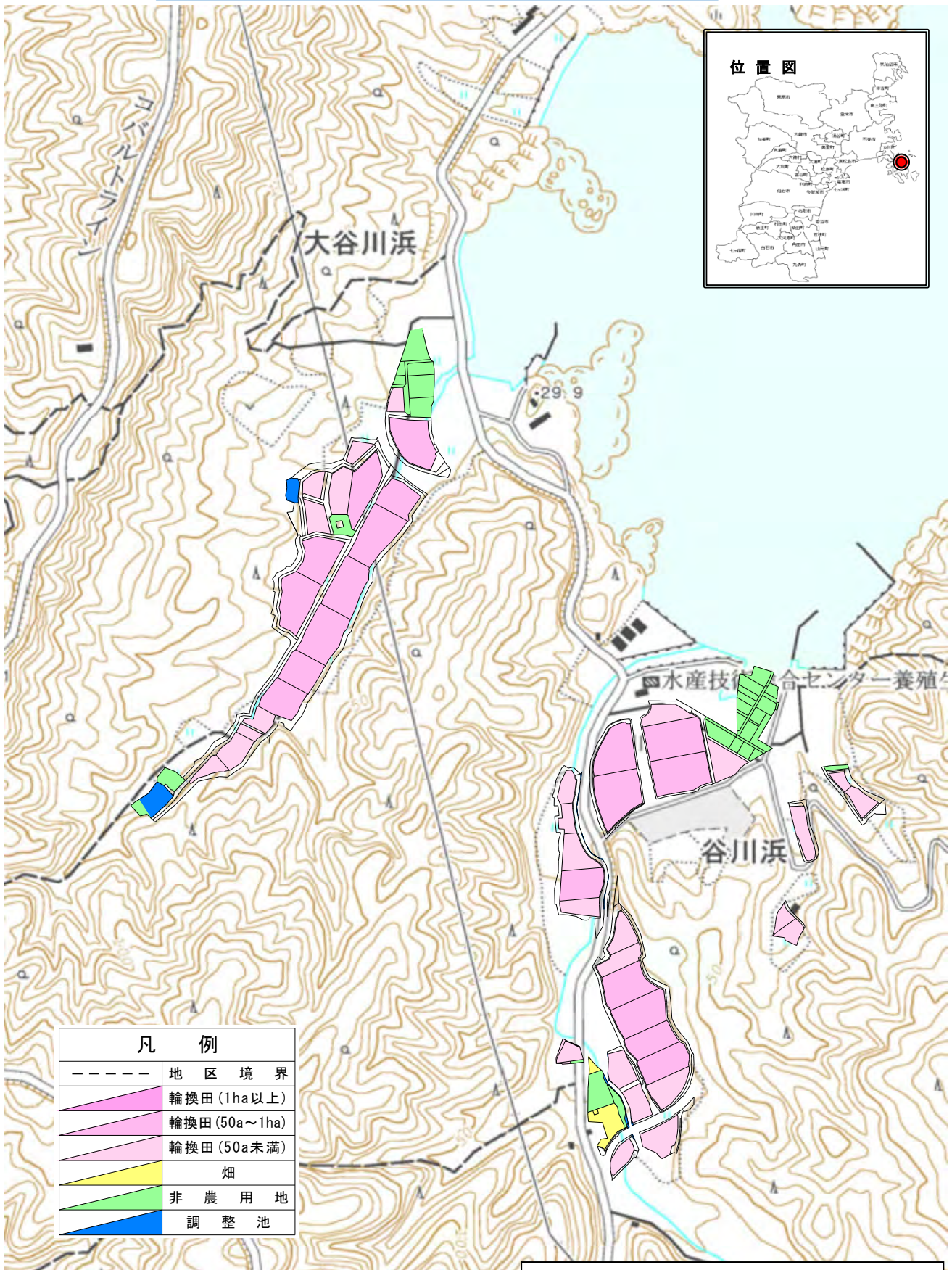


本地区は、石巻市の牡鹿半島中部東側に位置する鮫浦湾に面する農地です。

東日本大震災で大津波に見舞われ、甚大な人的・物的損害を被りました。ほ場への塩水浸入、へドロなどの堆積、1 mに及ぶ地盤沈下で用排水路の不具合などが生じ、営農再開が危ぶまれる状況に陥りました。

壊滅的状況からの早期の生活再建を目指し、農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興基盤総合整備事業）に着手しました。防災集団移転促進事業による住宅跡地を農地整備事業区域に取り込み、土地改良法の換地制度を活用し、農地とともに公共用地等として集積・再配置して、ほ場の大区画化と土地利用の整序化を図っています。

牡鹿地区 計画一般平面図



承認番号 平 27 情使、第 49-GISMAP34854 号

1. 事業実施内容

I. 実施概要

事業名	農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興基盤総合整備事業）
地区名（所在地）	牡鹿地区（石巻市）
事業主体	宮城県
関係土地改良区	—
受益面積／地区面積	22.1ha／33.9ha
総事業費	1,247百万円
事業期間	平成25年度～令和3年度

II. 主要工事内容

工種	数量	事業内容
区画整理工	22.1ha	水田 A=21.7ha、畑地 A=0.4ha
用水路工	2,473m	開水路（BF 300～450）
排水路工	5,254m	支線排水路（HF H500～700×B600～1000） 小排水路（HF H300～500×B300～500）ほか
道路工	5,183m	支線道路B=4.0～5.0m

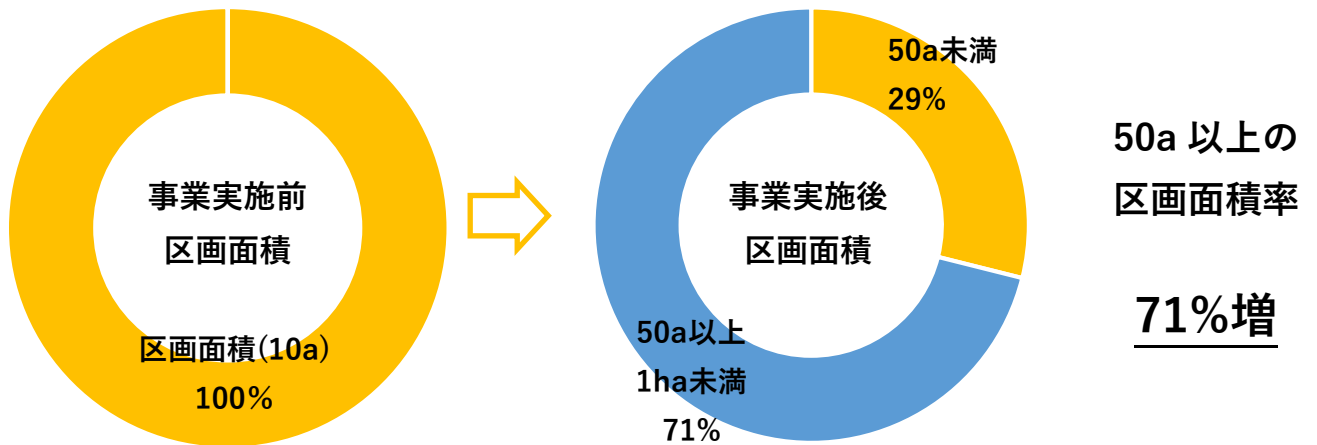
III. 年度別事業費・営農再開状況

項目	合計	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
測量設計	一式										
区画整理	22.1ha				3.5ha	8.8ha	7.6ha	2.2ha			
付帯工事	一式										
換地	一式										
営農再開	22.1ha						4.5ha	6.8ha	8.6ha	2.2ha	
事業費 (百万円)	1,247		32	146	353	205	109	120	271	11	

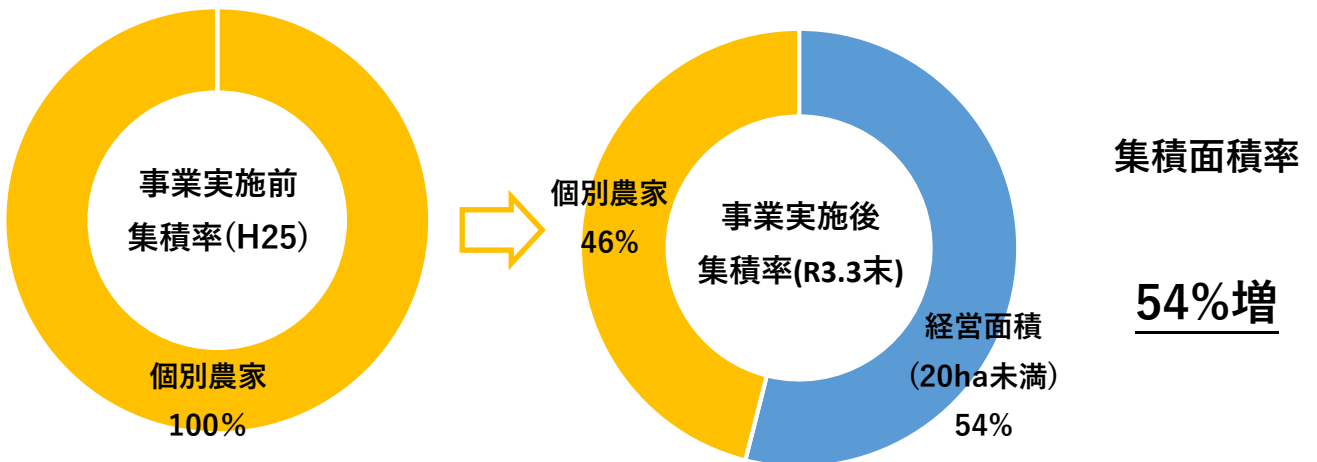
※R3年度は繰越予算により実施

2.大区画化と農地集積

I.農地（水田）の大区画化



II.農地集積状況



III.東日本大震災後に設立された農業生産法人 農事組合法人 おしか

3.担い手の声

「地域の農地を守る」

農事組合法人おしか 代表理事 渥美浩晃氏

東日本大震災によりに大きな被害を受けた農地でほ場整備が進むなか、担い手が決まらない状況でしたが、何回もの検討を重ね、この地域を何とかしなければという5名で「牡鹿地区生産組合」を立ち上げました（平成27年11月）。

その後、営農再開へ向け、石巻市の協力を得ながら「被災地域農業復興総合支援事業」により施設や機械を導入し、平成29年5月には7年ぶりの田植えを迎えることができました。非常に感謝しております。

今後は、生産組合を法人化した「農事組合法人おしか」（平成31年1月）を中心に、以前のように活気のある集落にしていきたいと考えています。



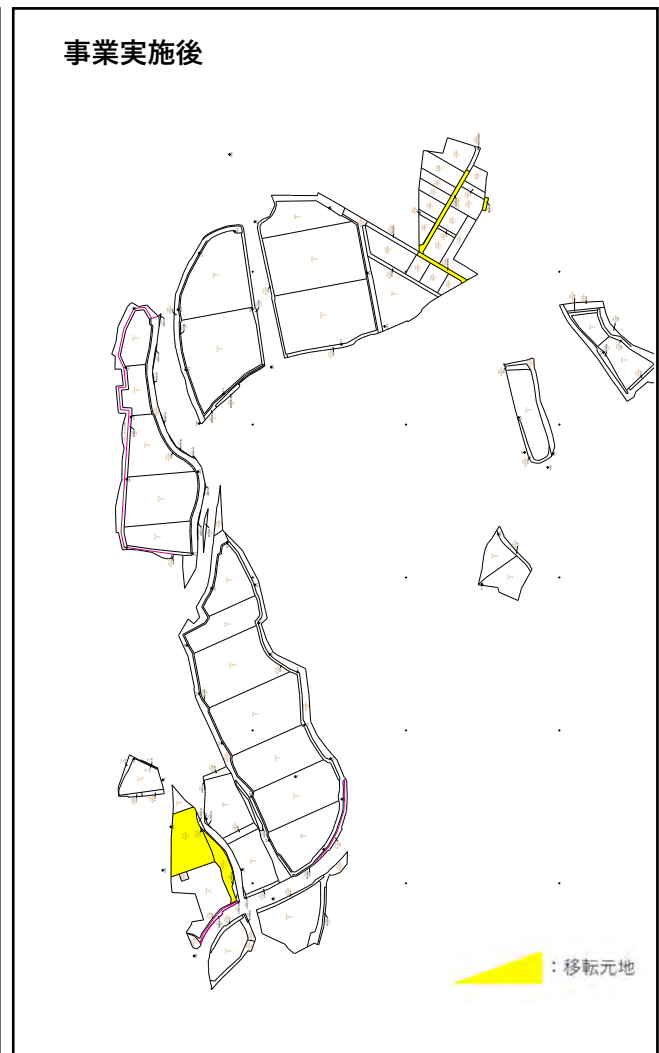
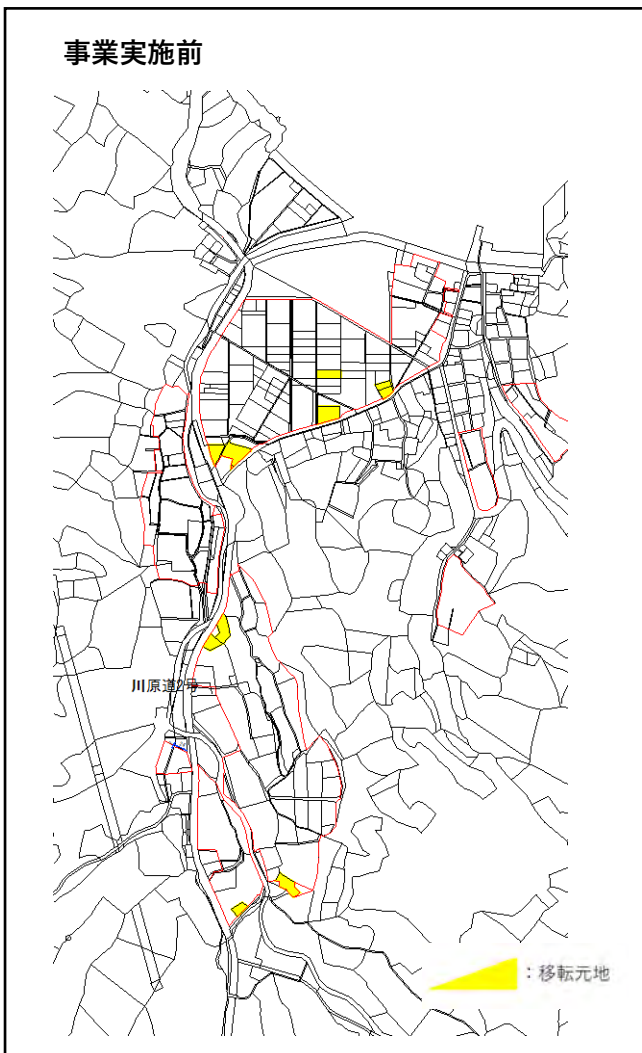
4.工夫・苦労したところ

- ①海岸堤防及び県道工事と施工時期が重なり、
施工調整や用地調整が必要であったこと。
- ②令和元年東日本台風で甚大な被害を受け、
復旧に時間を要したが、地元耕作者の協力も
あり、令和2年春の作付けに間に合わせるこ
とができた。
- ③石礫が多く出土し、除去工事に時間を要した。



5.土地利用の整序化

地区編入		利用計画	
移転元地 (防集買取)	A=0.9ha (27筆)	農業・漁業施設用地	A=0.8ha (8筆)
移転元地 (防集買取外)	A=1.6ha (18筆)	公共用地	A=0.1ha (2筆)
		個人用地	A=1.6ha (16筆)
合計 A=2.5ha (45筆)		合計 A=2.5ha (26筆)	



6.写真

I.被災状況



II.復興状況



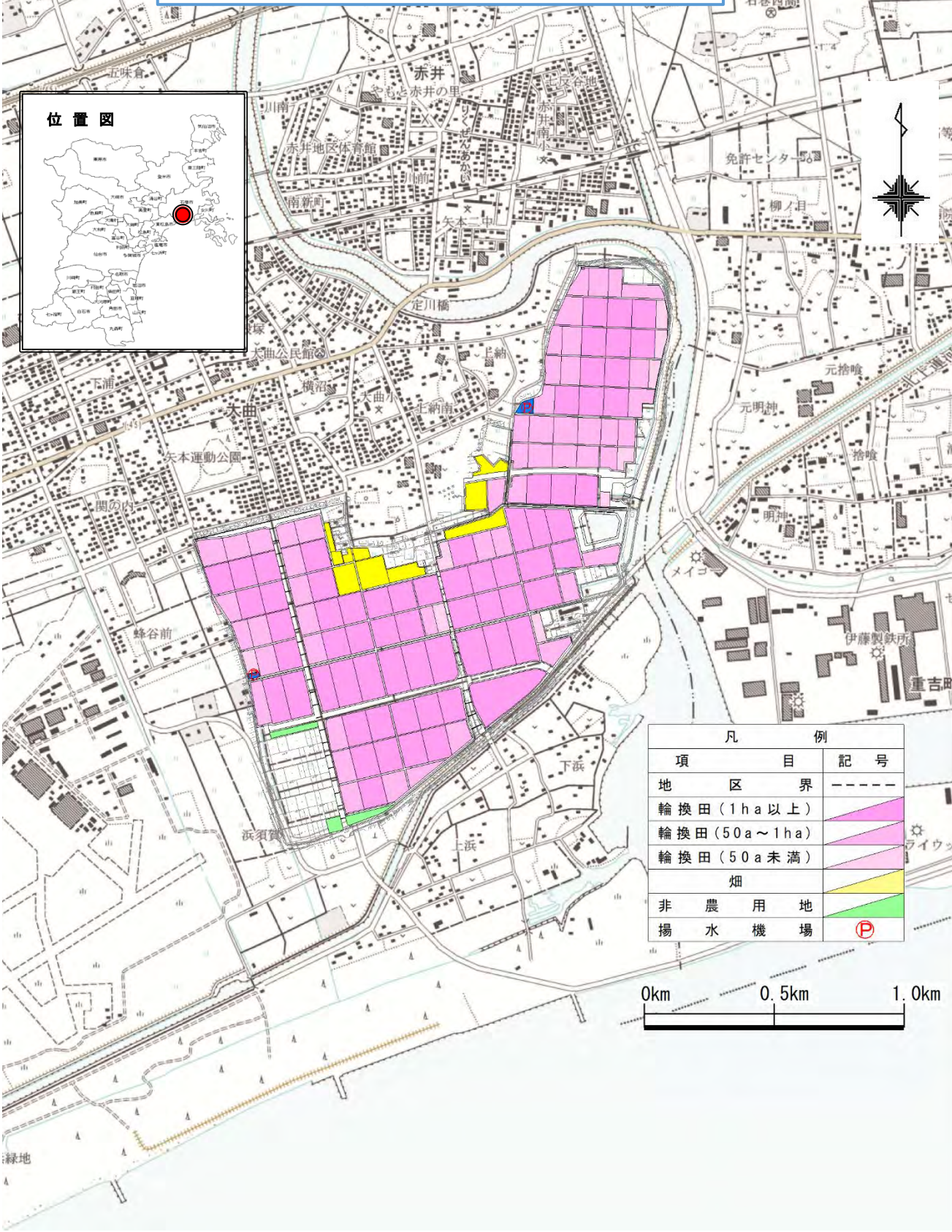
大曲地区



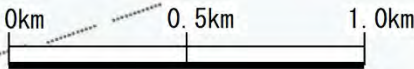
本地区は、宮城県の北東部に位置し、北側から東側を二級河川定川、西側を航空自衛隊松島基地に囲まれた水田地帯である。地区内の水田は大正9年～昭和20年代にかけて耕地整理事業によって10a区画に整備されているものの、末端用排水路は未分離で農道は狭小なことから、近代的な営農に支障を来していることに加え、担い手農家や営農組織の育成を阻害していた平成21年度に県営農地集積加速化基盤整備事業として事業採択を受け、耕地の区画形状の拡大、用排水路、農道の整備を行うこととしていた。

しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による大津波により地区全体が被災し、農地・農業用施設（排水機場・用排水路・農道等）が甚大な被害を被ったほか、地震の影響により地区全域に不等沈下が生じたことから、災害復旧事業による農地の原形復旧に止めず、復興交付金を活用し区画形状の拡大、用排水路の完全分離化を実現し、生産コストの低減化と耕地の汎用化を図り、農業経営の近代化による生産性の安定化を図った。

大曲地区計画一般平面図



凡 例	
項 目	記 号
地 区 界	---
輪 換 田 (1ha 以上)	
輪 換 田 (50a ~ 1ha)	
輪 換 田 (50a 未 満)	
畑	
非 農 用 地	
揚 水 機 場	



承認番号 平 27 情使、第 49-GISMAP34854 号

1.事業実施内容

I.実施概要

事業名	農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）
地区名（所在地）	大曲地区（東松島市）
事業主体	宮城県
関係土地改良区	河南矢本土土地改良区
受益面積／地区面積	129.5ha／150.5ha
総事業費	1,603百万円
事業期間	平成23年度～令和2年度

II.主要工事内容

工 種	数 量	事 業 内 容
区画整理工	129.5ha	水田 A=123.5ha、畑地 A=6.0ha
用水路工	15,088m	パイプライン(塩ビφ200～φ400)
揚水機場	3か所	水中ポンプ（φ200～250mm）N=6機
排水路工	6,668m	支線排水路（HF H700～800×B1000） 小排水路、承水路（HF H300～800×B300～700）ほか
道路工	13,726m	支線道路 B=4.0～5.0m
暗渠排水工	123.5ha	

※工事内容は地区全体（前歴事業含み）数量

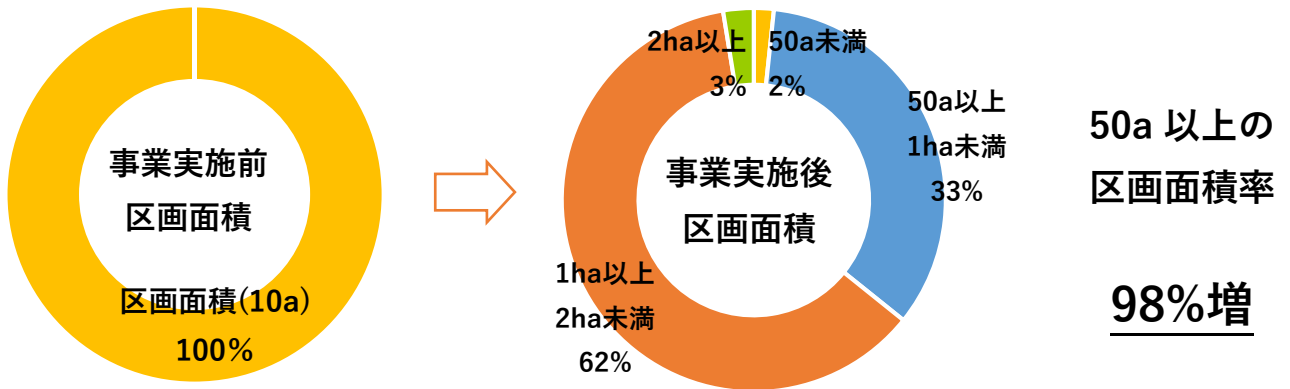
III.年度別事業費・営農再開状況

項 目	合 計	H23まで	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
測量設計	一式										
区画整理	129.5ha		32.6ha	46.8ha	50.1ha						
付帯工事	一式										
換地	一式										
営農再開	129.5ha		32.6ha	20.1ha	38.1ha	38.7ha					
事業費 (百万円)	1,603	33	342	473	439	78	105	23	37	73	

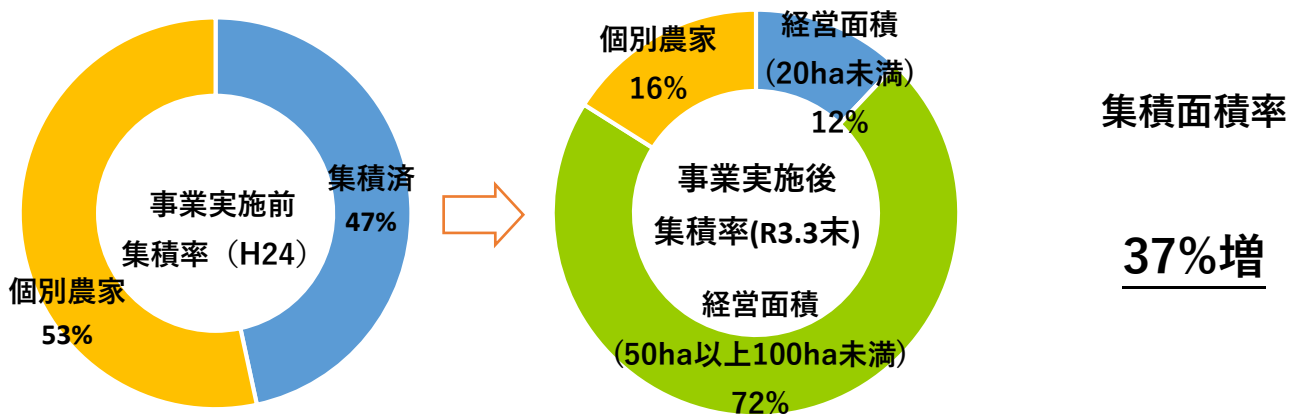
※R2 は繰越予算により実施

2. 大区画化と農地集積

I. 農地（水田）の大区画化



II. 農地集積状況



III. 東日本大震災後に設立された農業生産法人 株式会社ぱるファーム大曲

3. 担い手の声

本地域とともに発展する法人へ

株式会社ぱるファーム大曲 代表理事取締役 小岩 敏幸氏

東日本大震災により大曲地区のほぼ全ての農地（約 200ha）が被災し、地区内農家も大きな被害を受けました。震災前は、任意組織の大曲生産組合（組合 14 名）で、大豆転作等の農作業を受託していましたが、組合所有の施設・機械はもとより組合員すべてが被災し、離農する組合員もでました。そうした中、農地復旧を兼ねたほ場整備事業の実施にあわせ、関係機関協力のもと新しい生産体制の構築について検討を重ねました。その結果、地区の農地全体を担えるような法人を設立することで合意が得られ、営農再開を希望する大曲生産組合の有志 4 名が担い手として立ち上がり、平成 24 年 12 月に（株）ぱるファーム大曲を設立しました。

現在は、水稻・大豆・園芸作物（施設ミニトマトなど）の複合型経営を行っていますが、今後は交流・加工までを視野に入れた組織経営体を目指すと共に、雇用の充実を図りながら地域農業の活性化に貢献していきたいと考えています。



村井知事と（株）ぱるファーム大曲のみなさん

4.工夫・苦労したところ

- ①津波により従前農地の原形が分からないほどに甚大な被害を受け、瓦礫の撤去から始まった。
- ②工事実施の際に、新設される県道や防衛省用地の集約化など調整が多く必要だったこと。



5.写真

I. 被災状況・着手前



II. 復興状況



※出典：国土地理院 (<https://www.gsi.go.jp/>) 撮影空中写真を加工

農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）

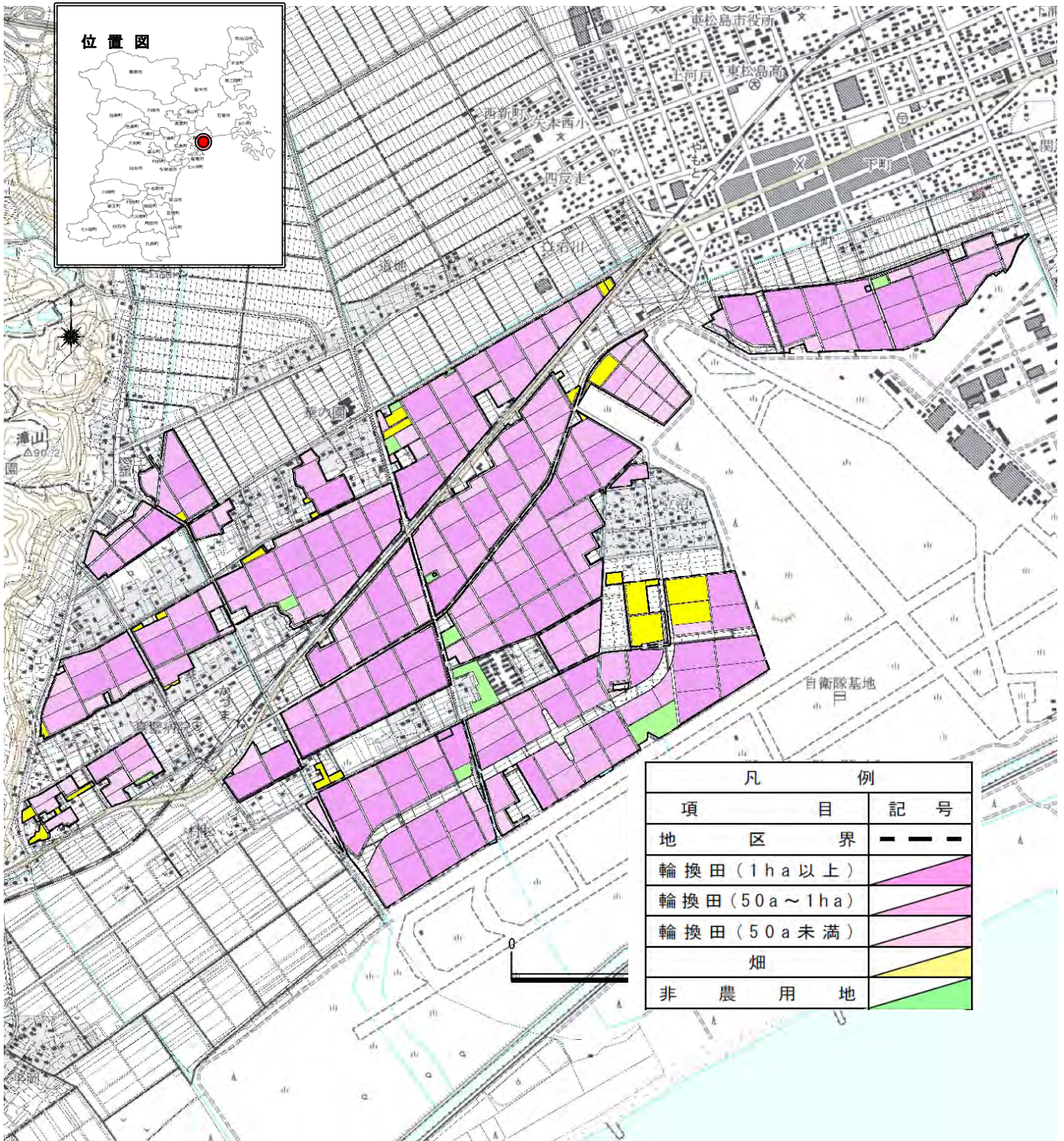
西 矢 本 地 区



本地区は宮城県北東部、東松島市の中央、航空自衛隊松島基地の北側に位置し、矢本市街地の西側の水田地帯です。地区内は昭和16年より行われた耕地整理事業により10a区画に整備済みですが、末端用排水路は未分離の土水路で農道は狭小なうえ、近代的な営農に支障をきたしており担い手の育成を阻害している状況にありました。

東日本大震災により地区全体が津波被害を受け、加えて地盤沈下（40cm～50cm）が生じたことや河川の破堤、用排水機場の流失などにより農業生産基盤が壊滅的な被害を受けました。このため、農地等の災害復旧事業を行うのみでなく、大区画化により農地の集約、経営の大規模化・高付加価値化を行い、収益性の高い農業経営を目指して事業を行うとともに、公共用地の創出、市の復興計画の実現に向けて事業を実施しています。

西矢本地区 計画一般平面図



承認番号 平 27 情使、第 49-GISMAP34854 号

1. 事業実施内容

I. 実施概要

事業名	農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）
地区名（所在地）	西矢本地区（東松島市）
事業主体	宮城県
関係土地改良区	河南矢本土地区改良区
受益面積／地区面積	196.5ha／226.0ha
総事業費	3,278百万円
事業期間	平成24年度～令和3年度

II. 主要工事内容

工種	数量	事業内容
区画整理工	196.5ha	水田 A=189.2ha、畑地 A=7.3ha
用水路工	34,062m	開水路（BF 600） パイプライン（塩ビ管φ75～450mm）ほか
揚水機場工	6箇所	水中ポンプ（φ100～250mm）N=14台
排水路工	25,725m	支線排水路（HF H400～900×B400～1400） 小排水路、承水路（HF H300～900×B300～1500）ほか
道路工	20,391m	支線道路B=5.0m、耕作道路B=3.0～5.0m
暗渠排水工	189.2ha	

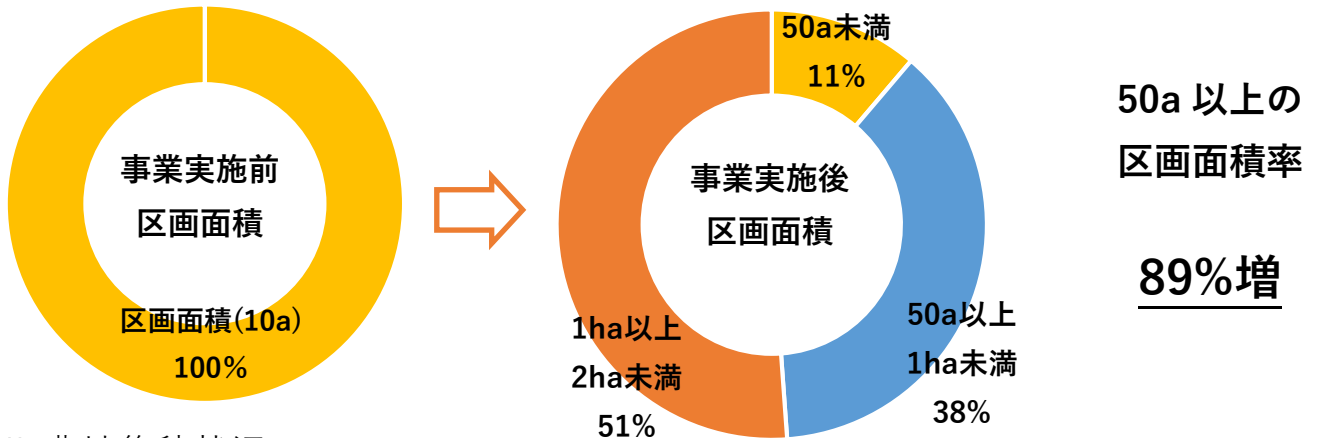
III. 年度別事業費・営農再開状況

項目	合計	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
測量設計	一式										
区画整理	196.5ha		123.3ha	53.3ha	19.9ha						
付帯工事	一式										
換地	一式										
営農再開	196.5ha			29.3ha	147.3ha		19.9ha				
事業費 (百万円)	3,278	162	1,285	803	549	126	111	46	85	111	

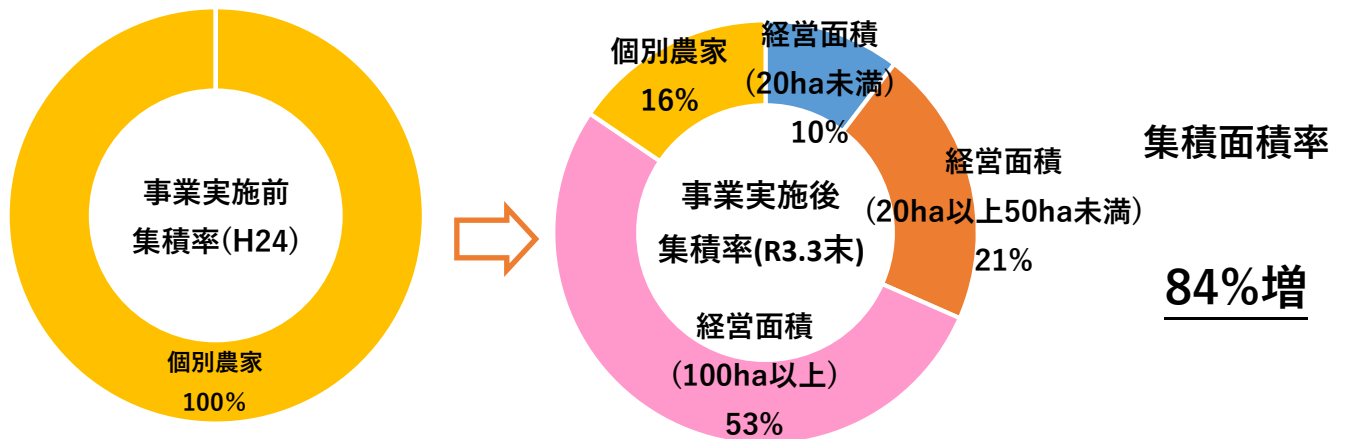
※R3年度は繰越予算により事業を実施

2. 大区画化と農地集積

I. 農地（水田）の大区画化



II. 農地集積状況



III. 東日本大震災後に設立された農業生産法人
株式会社めぐいと、株式会社パスカファーム立沼

3. 担い手の声

実りある農地への復旧 地域共存の企業に

株式会社めぐいと 代表取締役社長 武田恵喜氏

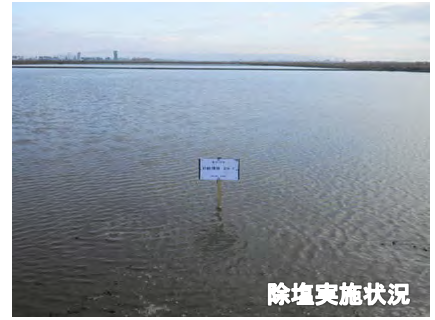
震災による津波被害が広範囲に及んだ当地区は、平成24年に被災農地一部で原形復旧・除塩作業が行われ、平成25年より農地の大区画化を伴う農地整備事業が始まりました。そのような中で、震災以前より各地区で農業に従事していた30～60代の有志6名で（株）めぐいとを設立しました。震災後、様々な方々から”優しさ””心づかい”という恵みをいただいて立ち上がり、大地の恵みで作物を育てて恩返しをしたいという思いのこもった会社です。

現在、水稻を中心に大豆・麦など土地利用型作物を栽培するほか、施設トマトや西洋野菜栽培など農業の複合化に取り組んでいます。経営面積は地区内外を含め、約150haとなりました。

弊社は、チームワークの良さが自慢です。常に情報を共有し良い農産物を生産しよう、働きやすい会社にしよう日々意見を言い合いながら生産活動に務めています。近年6次産業化への取組も始めました。社員が一丸となり、夢を持って働ける・東松島市に貢献できる企業となることが目標です。

4.工夫・苦労したところ

- ①農地復旧・除塩などの災害復旧事業とともに、区画整理工事を行った。
- ②土地利用の整序化や防衛省用地の集約化、三線堤工事との調整。
- ③土質が砂質であり、法面崩壊が多々あることによる補完工事対応。



5.土地利用の整序化

地区編入		利用計画	
移転元地（防集買取）	A=1.01ha（17筆）	市有地として農地利用	A=1.01ha（1筆）
合計	A=1.01ha（17筆）	合計	A=1.01ha（1筆）

事業実施前



事業実施後



6.写真

I. 被災状況・着手前



II. 復興状況



※出典：国土地理院 (<https://www.gsi.go.jp/>) 撮影空中写真を加工

農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）

奥松島地区

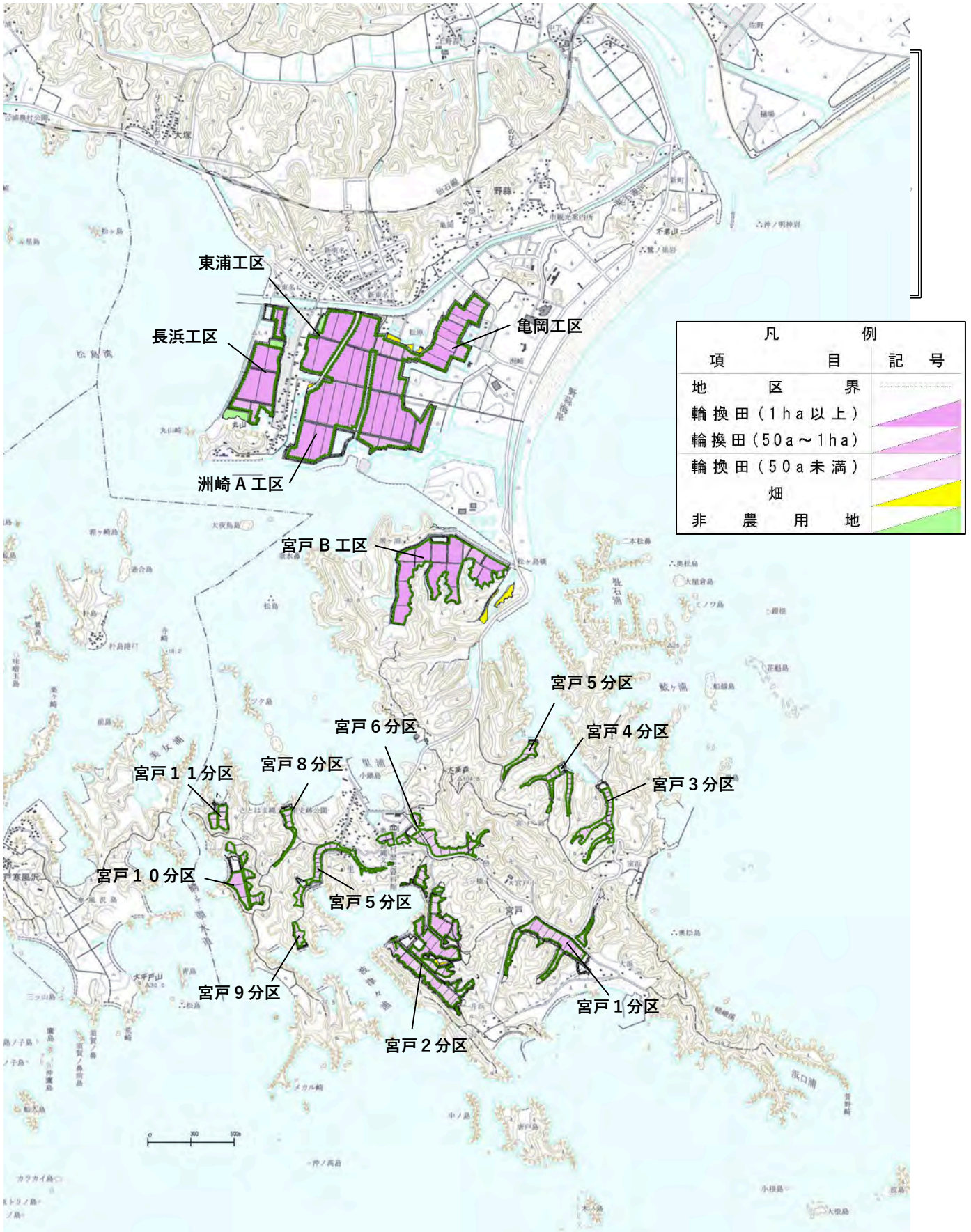


本地区は、宮城県東松島市の南部の沿岸に位置し、北側に一級河川鳴瀬川の右岸河口部および野蒜海岸に接した洲崎東名地域と、日本三景「松島」の東側に位置する、宮戸地域の農業地帯です。

洲崎東名地域と宮戸地域の一部は、一級河川東名運河左岸沿いで、昭和28から昭和40年の国営代行干拓事業「宮戸地区」により造成された干拓地で一部は大規模な区画となっていますが、5～30a前後の区画に整備されており、用排水路や道路も未整備箇所がありました。

東日本大震災により、多数の人命、家屋や堤防の倒壊、漁業・農業施設等甚大な被害を受け、地盤沈下などにより農地は3年以上水没していました。本事業により区画整理区域の整備拡大、用排水路の整備、農道整備等の農地改良のために必要な全ての改良工事を総合的に行い、農地の汎用耕地化、集団化を促進し、大型機械の導入等を可能にすることで新たな農業の展開を推進し復興、活性化を図っています。

奥松島地区 計画一般平面図



承認番号 平 27 情使、第 49-GISMAP34854 号

1. 事業実施内容

I. 実施概要

事業名	農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）
地区名（所在地）	奥松島地区（東松島市）
事業主体	宮城県
関係土地改良区	鳴瀬土地改良区
受益面積／地区面積	141.9ha／196.0ha
総事業費	5,245百万円
事業期間	平成26年度～令和3年度

II. 主要工事内容

工 種	数 量	
区画整理工	141.9ha	水田 A=134.6ha、畑地 A=7.3ha
用水路工	25,121m	パイプライン(塩ビ管φ150～500mm) ほか
揚水機場工	1か所	水中ポンプ（φ150mm）計2機
排水路工	20,952m	支線排水路（H600～H1500×B700～2000） 小排水路、承水路（H300～900×B300×1000）
排水機場工	1か所	水中ポンプ（φ150～250mm）計2機
道路工	30,524m	支線道路B=3.0～5.0m、耕作道路B=3.0～4.0m
暗渠排水工	134.6ha	

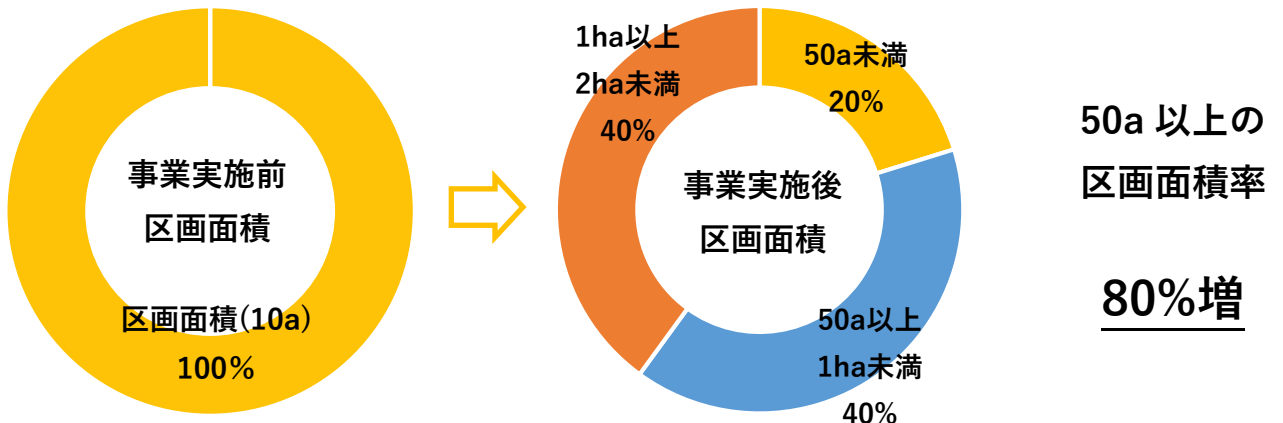
III. 年度別事業費・営農再開状況

項 目	合 計	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
測量設計	一式								
区画整理	141.9ha		100.6ha	17.1ha	10.7ha	9.1ha	4.4ha		
付帯工事	一式								
換地	一式								
営農再開	141.9ha			76.3ha	27.5ha	24.6ha		13.5ha	
事業費 (百万円)	5,245 百万円	85	1,418	1,431	331	597	875	508	

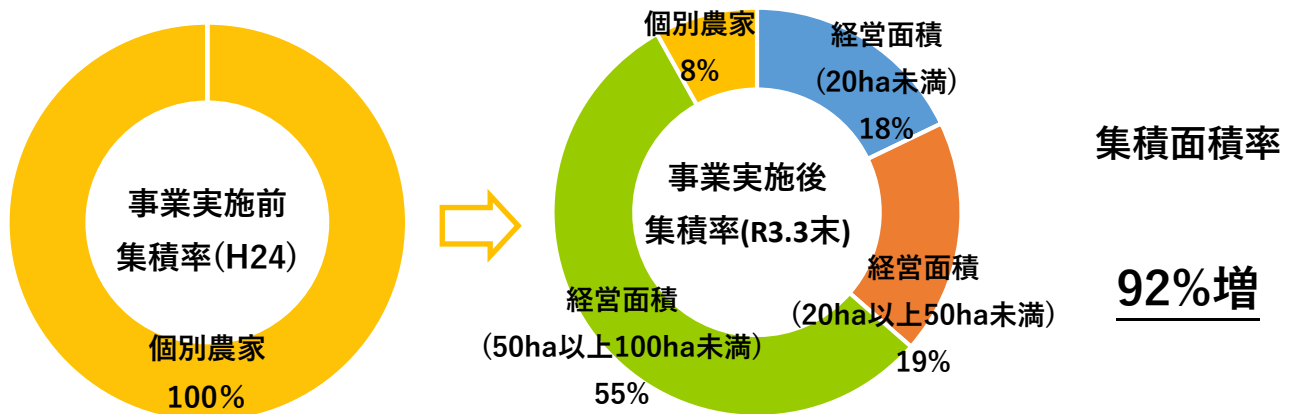
※R3 は繰越予算により実施

2. 大区画化と農地集積

I. 農地（水田）の大区画化



II. 農地集積状況



III. 東日本大震災後に設立された農業生産法人

(農) 奥松島グリーンファーム

3. 担い手の声

実りある農地への復旧 希望をかたちに

農事組合法人 奥松島グリーンファーム 代表理事組合長 菊地照夫氏

当地区は、震災時の7mを超える津波により防潮堤が破壊され、農地が沈下。3年間海水に浸水しました。その後、農地災害復旧事業により干陸化・盤上げ・除塩工事が進められ、H26年には「奥松島地域の農地を考える会」が発足。水稻等の試験栽培が開始されたことで目に見える復旧により営農への意欲を取り戻すことができました。

さらに、東日本大震災復興交付金により農業機械・施設等も整備され、また、基盤整備事業によりH28年度から徐々に本格的な営農再開が実現し、洲崎・東名地区(約95ha)の担い手として地域農業を担うこととなりました。

現在、水稻・大豆栽培を経営の核とし、JA等に協力をいただきながら育苗ハウス・露地での加工野菜の栽培など多様な営農にチャレンジしています。これからも、自分たちの生まれ育った農地を守り続ける農業を実践していきます。

4.工夫・苦労したところ

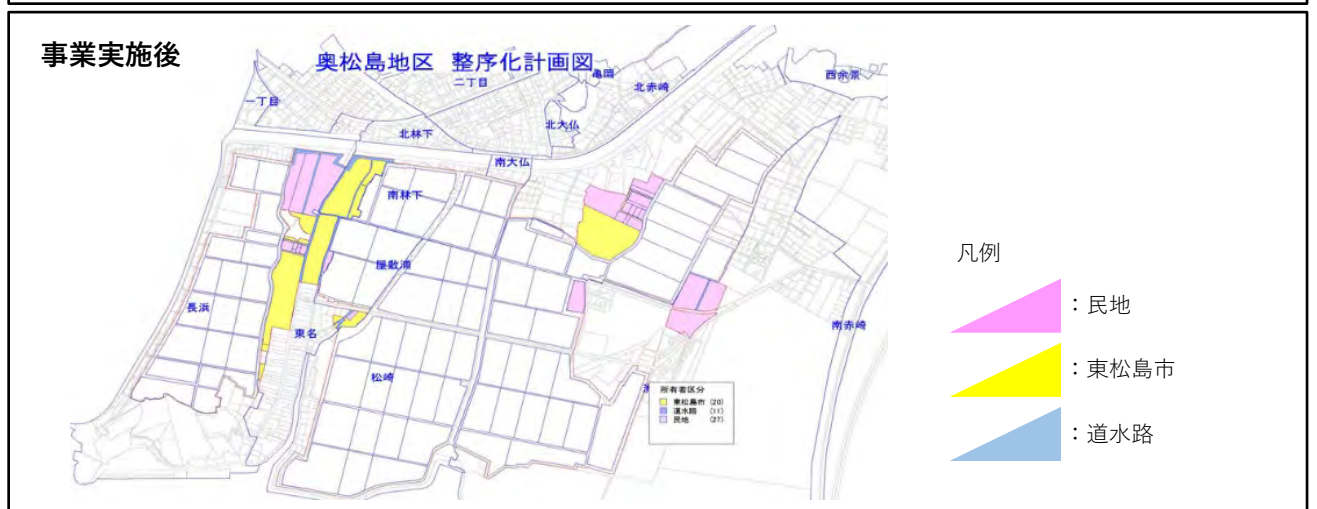
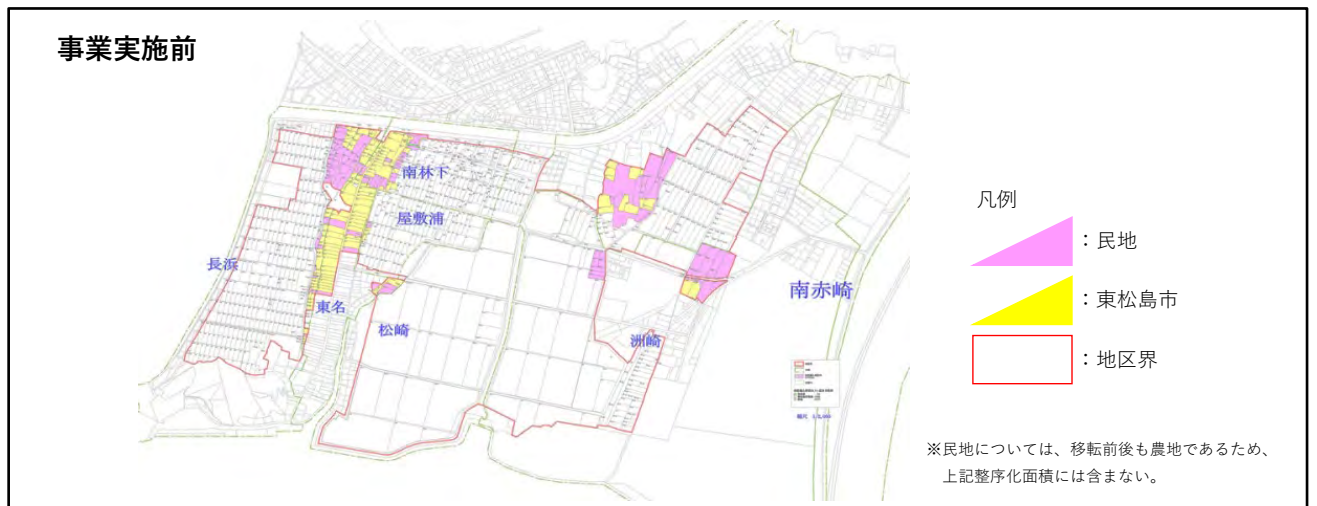
- ①宮戸島内に道路幅が狭い箇所が点在しており、持続的な営農のためワークショップを活用した地元合意形成を実施し、事業を進めた。
- ②特別名勝松島であり、景観への配慮が必要であり、事業進捗にタイムラグが生じないように協議を進める必要があったこと。
- ③県道工事との施工調整が多く必要であったこと。
- ④石礫浮上等による補完工事対応。



石礫の浮上状況

5.土地利用の整序化

地区編入		利用計画	
移転元地（防集買取）	A=7.1ha（165筆）	市有地として農地利用	A=7.1ha（13筆）
合計	A=7.1ha（165筆）	合計	A=7.1ha（13筆）



6.写真

I. 被災状況・着手前



II. 復興状況



※出典：国土地理院 (<https://www.gsi.go.jp/>) 撮影空中写真を加工